

等温衝撃波

2006. 1. 12.

1 はじめに

このモデルパッケージは、2次元平面内での等温衝撃波問題を解くためのものである。

2 仮定と基礎方程式

流体は非粘性・等温ガスとする。計算領域は2次元デカルト座標 (xy 平面) で $\partial/\partial z = 0$ 、 $V_z = 0$ と仮定する。解くのは、密度 ρ 、速度 V_x 、 V_y についての2次元等温流体方程式

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho) + \frac{\partial}{\partial x}(\rho V_x) + \frac{\partial}{\partial y}(\rho V_y) = 0 \quad (1)$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho V_x) + \frac{\partial}{\partial x}(\rho V_x^2 + p) + \frac{\partial}{\partial y}(\rho V_x V_y) = 0 \quad (2)$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho V_y) + \frac{\partial}{\partial x}(\rho V_x V_y) + \frac{\partial}{\partial y}(\rho V_y^2 + p) = 0 \quad (3)$$

$$p = \frac{k_B}{m} \rho T \quad (4)$$

である。ここで、 T はガスの温度で定数。

3 無次元化

計算コードの中では、変数は以下のように無次元化して扱われる (表1参照)。長さ、速度、時間の単位はそれぞれ L_0 、 C_{S0} 、 L_0/C_{S0} 。ここで、 L_0 は計算領域の大きさ、 C_{S0} はガスの音速。密度は高圧側の値 ρ_0 で無次元化する。以下、無次元化した変数を使う。

変数	規格化単位
x, y	L_0
V_x, V_y	C_{S0}
t	L_0/C_{S0}
ρ	ρ_0

表 1: 変数と規格化単位

4 パラメータ・初期条件・計算条件・境界条件

$|x| < 1/2$ 、 $|y| < 1/2$ の領域を解く。初期状態は以下のようなもの。サブルーチン `model` で設定する。

$$\rho = \rho_0 + (\rho_1 - \rho_0) \frac{1}{2} \left[1 + \tanh \left(\frac{s}{w} \right) \right]$$
$$V_x = V_y = 0$$

ただし、

$$s = x \cos \theta_i + y \sin \theta_i$$

$w = 0.02$ は数値不安定を避けるための遷移幅。

パラメータ	値	コード中での変数名	設定サブルーチン名
高圧側密度 ρ_0	1	ro0	model
低圧側密度 ρ_1	0.125	ro1	model
初期不連続の角度 θ_i	60 度	thini	model

表 2: おもなパラメータ

境界条件は、すべて自由境界条件。サブルーチン `bnd` で設定する。

計算パラメータは以下の通り（表 3 参照）。

パラメータ	値	コード中での変数名	設定サブルーチン名
グリッド数 x 方向	103	ix	main
グリッド数 y 方向	104	jx	main
マージン	4	margin	main
終了時刻	0.14154	tend	main
出力時間間隔	0.05	dtout	main
CFL 数	0.4	safety	main
進行時刻下限値	10^{-10}	dtmin	main

表 3: おもな数値計算パラメータ。マージンとは、境界の値を格納するための配列の「そで」部分の幅のこと。進行時刻下限値とは、各計算ステップの Δt の値がこの値を下回ったときに計算を強制終了するための臨界値。